

令和7年度 犬山市障害者自立支援協議会 定例部会 活動報告(令和7年3月6日時点)

①定例部会(第1回定例部会)

《目的》

各事業所の話題になっている情報や課題を地域全体で共有し、支え合いの仕組みを整える。

《実施報告》

課題「防災」をテーマに「自分達に何が出来て、何が出来ないか。」「どこの部分で事業所同士の連携ができるか。」を考えるグループワークを開催。

- 日 時 令和7年10月1日(水)10時～12時
- 場 所 犬山市役所 2階 205会議室
- 対象者 市内障害福祉サービス等事業所、相談支援事業所、精神科及びクリニック、当事者団体、行政等
- 参加者 56名

《参加者の意見》※一部抜粋

- ・安否確認のため事業所間のネットワーク作り、市と事業所の連携強化が必要。
- ・各事業所の備蓄品の充実、事業所同士の相互連携が必要。
- ・医療的ケアが必要な方への発電機、蓄電池等の電源確保。
- ・災害時の想定(訓練)、障害者に対する支援のマニュアル化(BCP等の見直し)
- ・他機関(病院、消防、行政、インフラ企業、一般企業、薬局、大手スーパー、コンビニ等)と関わる機会の提供
- ・近隣(地域)との関わり



①定例部会(第1回定例部会) 開催前・開催後 → 市への提言

《運営委員協力メンバー》

今年度新たに、定例部会の開催を皮切りに、運営委員協力メンバーを募集した。
市内障害福祉事業所、当事者団体より全13名が応募。

メンバー募集の目的:現在、協議会の主な活動は、会長はじめ各部会長で構成する運営委員において実施している。協議会活動を継続的に実施するには、長期的な視点にて次世代に繋いでいく必要がある。
運営委員協力メンバーは市内全事業所を集めるワーキングなどでファシリテーターを務め、意見集約、まとめを行う等の役割を担うことで、協議会活動への積極的参加や理解を深める。また、将来的な運営委員になり得るキーパーソンとして繋いでいけるようメンバー募集を行った。

《運営委員協力メンバーによる定例部会準備会》 全2回

- 令和7年7月15日 開催 部会長ほか10名参加
長年の課題である「災害時の防災支援」をテーマに、定例部会で扱うテーマ選定のため、下記②点について意見出しを行い、当日の進め方を検討した。
- ①「災害時、事業所として事業を継続するためには」
～管理者による事業所からの視点で課題抽出～
- ②「災害時、利用者さんからの意見<困りごとなど>」
～管理者が把握する利用者さんからの視点で課題抽出～



○10月1日定例部会

- 令和7年12月16日 開催 部会長、運営委員ほか8名参加
定例部会の振り返りとして、部会で出された全体意見をカテゴリ別に整理し、下記2項目に更に分類
- ①今後の協議会活動として実現可能な事業
- ②協議会として市に提言することで解決に繋がりそうな事業



○2月運営会議

《運営委員協力メンバーから運営委員へ → 全体会・協議事項》

- ・協議会から市への提言について
- ①福祉避難所への直接避難について
- ②災害時の安否確認における行政・障害福祉事業所の連携強化について

提 言 書

※2月運営会議：文章・文言修正
(最終・案)

犬山市長 原 欣 伸 様

犬山市障害者自立支援協議会
会長 木 村 敏 夫
提言日：令和8年3月 日

1. 福祉避難所への直接避難について

本市における災害時の避難体制の強化に向け、介護や日常生活の支援が必要な障害者が、迅速かつ安全に避難できる環境整備は極めて重要である。現状、福祉避難所は「二次避難所」とされ、一次避難所を経由する運用となっている。しかし、障害者にとって、一次避難所では受け入れ体制が十分でない場合が多く、移動負担や安全確保の面で大きなリスクが生じている。については、福祉避難所を実質的に一次避難所として機能させるとともに障害者が直接避難できる体制整備として下記資機材の導入を要望する。

<必要資機材>

- ・ 医療的ケア機器（人工呼吸器、吸引器、在宅酸素等）の電源確保のための発電機・蓄電池等

2. 災害時の安否確認における行政・障害福祉事業所の連携強化について

災害発生時、障害福祉事業所や行政は、支援が必要な市民の安否確認を迅速に行う必要があり、安否状況を共有することは極めて重要である。しかし現状では連絡手段が統一されておらず、情報伝達の遅延や重複が発生する恐れがある。そのため、行政・障害福祉事業所が共通して使用できるよう連絡手段の仕組み構築を要望する。

<期待される効果>

- ・ 情報伝達の迅速化
- ・ 安否確認の一元化
- ・ 支援ニーズの早期把握
- ・ 行政・事業所間の連携強化
- ・ 災害時の支援対象者の漏れ防止

結び

本提言は、災害時における障害があり支援が必要な市民の安全確保と、行政・福祉事業所の連携強化を目的としたものである。市民の命と尊厳を守るため、上記施策について前向きな検討と早期の実現を強くお願い申し上げる。

② 就労と生活を支える仲間のつどい

《目的》

事業所職員の方を対象に、支援員や相談支援専門員の立場から他事業所の詳細を知り、日頃の支援についての困り事の共有や親睦を深めるため、他事業所の見学を行う。

《見学会》

- 令和7年8月26日(火)
- 見学先：(福)楽田福祉会 多機能事業所ベアネスト
- 参加者：12名
- テーマ：多機能事業所ベアネスト
～安らげる場所で自分らしく生きていく～
- 紹介内容：法人概要・利用者数・送迎
自立訓練、生活訓練のカリキュラム
就労移行の技術習得
事業所の支援力(強み)紹介
施設内案内

《参加者の意見》※一部抜粋

- ・他事業所の見学に行く機会が少ない。支援方法に対する気付き、学びを今後の相談支援に活かしていきたい。
- ・他事業所の事業内容、支援方法を深く知る機会となり有意義であった。
- ・バスの中では、会議とは異なる交流を図ることができ良かった。



② 就労と生活を支える仲間のつどい

令和7年度新事業：障害福祉サービス事業「求職者向けPR事業」

《目的》

障害福祉事業所で働く人の離職率が高く、人材不足(支援員、保育士、看護師等の有資格者)が長年の課題となっている。
ハローワーク犬山と連携し、継続的に企業展(事業所紹介)を開催することで、犬山市の障害福祉事業所を知っていただくと共に、各事業所で働く職員から直接話しを聞ける、求職者向け相談会を開催し人材確保に繋げる。

《ハローワーク犬山との連携》2回訪問

- ・求職者へダイレクトに障害福祉事業所を紹介する機会について検討
- ・ハローワーク犬山の「介護×知って 話して つながる時間」の見学アンケートから求職者のニーズを把握

《求職者向けPR事業準備会》2回開催

- ・参加を希望した市内障害福祉サービス事業所5事業所
(市内全事業所：児18事業所、者26事業所、相談支援9事業所)

《実施報告》

- 事業名 犬山市障害福祉のおしごと 就職相談・説明会
- 日時 令和8年2月21日(土)10時～12時
- 場所 市民交流センターフロイデ 2階 204・205会議室
- 参加者 1名
※尾北看護専門学校の学生が学校配信のSNS(Instagram)周知により当該事業を知り参加された。

《令和8年度》

就職活動の時期にあわせて実施予定。



ひだまり作品展

《目的》

障がいのある方の生涯学習や余暇活動の充実の機会として作品展を開催。

- 日時 令和8年2月28日(土)11時30分～17時
3月1日(日)9時30分～15時30分
- 場所 市民交流センターフロイデ
- 作品数 81作品

- ・作品展準備会を開催し、企画段階から当事者に主体的に関わっていただきました。
- ・ひだまり作品展は、各事業所の利用者のほか、文部科学省の障害者の学びの場の拡充を目指した公民館講座と連携し、講座で制作された犬山市心身障害児(者)父母の会に所属の方の作品を南部公民館のロビーで展示後、ひだまり作品展にも展示。
- ・犬山市身体障害者福祉協会とも連携し、当事者が地域活動等で制作した作品を協会の展示会のほか、ひだまり作品展にも展示。

《作品展準備会メンバー》

市内地域活動支援センター、障害者団体の当事者とサポーター職員 12名

《作品展準備会》5回開催

開催場所、開催時期、作品展のチラシ、当日の進め方、飾りつけのレイアウトなどについて話し合いました。また、3月中下旬に第6回準備会を開催し、作品展のふりかえりを行う予定。

<地域活動等で制作した作品>

参加者：犬山市身体障害者福祉協会



<公民館講座で制作した作品>

参加者：犬山市心身障害児(者)父母の会

